

で
存じ
ますか?

年間85万人も利用の「こどもの城」廃止!?

「存続を」の声を上げましょう!

「子どもの城」は、国際児童年を記念して1985年につくられ、多彩な文化活動や遊びの拠点になっているほか、全国の児童館へのプログラムの開発・提供、妊娠中の女性の相談・保健

健やかな成長の
ための総合施設



厚生労働省は9月28日、国立総合児童センター「子どもの城」を2014(平成26)年度末で閉館すると突然発表しました。
日本共産党の笠井亮衆院議員、富田なおき衆院東京1区候補、宮本徹衆院東京比例候補らは、10月4日、厚生労働省から聞き取りを行いました。

事業などに取り組んでいます。施設内には体育館、アスレチック、プール、スタジオ、青山劇場、青山円形劇場、ビデオライブラリー、パソコンルームなどが備わり、遊具が豊富。小児クリニックまであり、児童の健全な育成を目的にした施設です。

年間85万人が来場、子どもたちに大人気のスポットです。港区の子どもたちにも大人気です。



署名に御協力ください

風見利男のブログをご覧ください

無料なんでも相談会 / 毎月第3月曜日 18時30分～ 事前にご予約ください

風見 利男 (日本共産党
港区議会議員)

区政と

あなたを結ぶ

号外

Email ● kazami@jcp-minatokugidan.gr.jp
HP ● <http://www.jcp-minatokugidan.gr.jp/>

新しい視点 展望しめす

しんぶん 赤旗

日刊紙 ● 月3,400円
日曜版 ● 月 800円

政府も「優先度高い」としていた

聞き取りでは、厚労省が廃館の発表で示した「子どもを取り巻く環境が変わった」、「建物の老朽化」、「児童館の整備がすんだ」などの理由に対し、疑問点が次々と出されました。

老朽化について厚労省は、新たな資料として、東日本大震災を受けて行ったという震災影響建物調査報告書の概要を提示。数年以内に120億円程度の大規模改修が必要になると説明しました。しかし、この大規模改修は30年間、施設を維持するためのものと明記されており、宮本氏は「120億円かかるといっても、30年持つならば年間にならせば4億円程度の負担。その他の補修費と合わせても、現在でも毎年3〜5億円支出している修繕費に比べ、維持のための負担が極端に増えるわけではない」と指摘しました。

また、笠井氏は、廃止発



表（9月28日）の同月7日に厚労省が発表した、13年度予算概算要求にむけた12年行政事業レビューシートでもこどもの城の事業について、「年間80万人前後の来館者があり優先度の高い事業」としていたことをあげ、「（閉館は）子育て支援を担当する厚労省の責任放棄で、文化施策の面でも逆行といわざるを得ない。こどもの城と二つの劇場は存続すべきだ」と求めました。

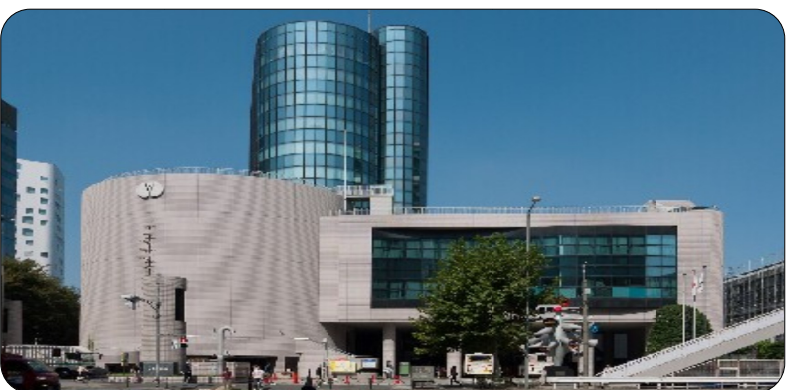
「存続を」の声をあげましょう

地元の子育て中の母親などから「地域での子育て支援施設は、非常に少ないのが実態。国として大切な施設をなくさないでほしい」「今年6月に劇場の活性化をすすめるという法律ができたばかりなのに、国の劇場を廃止するというのは逆行している」などの声が出されました。

聞き取りの中で、「こどもの城」の遊びの研究・発信機能や子育て支援・診療

を行っている小児保健部の今後についても、何も決まっておらず、閉館が十分な検討もなく発表された実態が明らかになりました。利用者の声も聞かずに、一方的に廃止を決めた厚労省のやり方には一片の道理もありません。

子どもたちの貴重な施設「こどもの城」と青山劇場などを「存続せよ」の声を、国にあげましょう。



（青山こどもの城）